

第44回 整備進まない高齢者福祉

中国の高齢化対策として政府は2011年に中国高齢化事業12次5ヵ年計画を発表しました。

中国高齢化の特徴は高齢者人口の規模や高齢者人口比の地域格差(沿岸と内陸、都市と農村)が大きいこと、「未富先老(豊かになる前に高齢化が訪れる)、社会保障制度が未整備、高齢者のみの世帯が増していることなどが上げられます。課題として介護サービスと施設の整備不足、介護政策や介護保険の導入及び法律・法規の見直し、介護人材と介護知識不足、介護サービス提供の全体的な資金力不足があります。

2011年~2015年



までの5ヵ年計画では①超高齢化社会に向け、高齢化事業の中期戦略を作る、②社会保険制度整備(社会保険制度を全国に普及させ、条件を満たした全ての高齢者が保障を受けられる体制を整える)、③健康管理サービスとして65歳以上の高齢者に定期健康診断を行う、④介護サービス、養老施設建設を推進し、介護用ベッド数を高齢者1000人あたり30床整備する、⑤高齢者活動の充実(高齢者向け教育、デイサービス等のサークル施設の推進)⑥高齢者施設の改善(バリアフリー化、職員教育)などが挙げられました。しかし今年が中国高齢化事業12次5ヵ年計画の最終年となりますが、思うような成果が

介護 B i z

出ていないのが現状です。

2013年に

は中国政府は養老機構管理弁法を施行し、民間や外資の力を活用し養老施設を拡大する為に①ベッド数は10床以上、②外資の介護施設開設、③公立施設は身寄りのない高齢者を優先させる、④子供の署名なしでも施設への入居を可とする、⑤高齢者の精神的豊かな生活を保障、⑥高齢者虐待罰金最高3万円、⑦介護施設の評価制度を実施しました。

各市区も独自の政策や建設補助金、介護サービスに



なる日も来るかもしれませ

対する補助等も積極的に打ち出してきました。しかし、市区担当役人は事例が少ない事に対し仕事を敏速にこなせていないのも事実です。この停滞感を打破し、日系企業が中国介護事業で先進事例を作り、膨大な中国介護マーケットで主役になる日も来るかもしれませ

事例少なく、足踏み状態

中国の高齢者マーケット



ゲストハウス社長 松山英樹

~介護・不動産事業の行方~

著者プロフィール
ゲストハウス社長。2007年から高齢者住宅リポーンシリーズを関西圏で展開。中国市場開拓を目指し、上海に中国シニア事業会社設立。